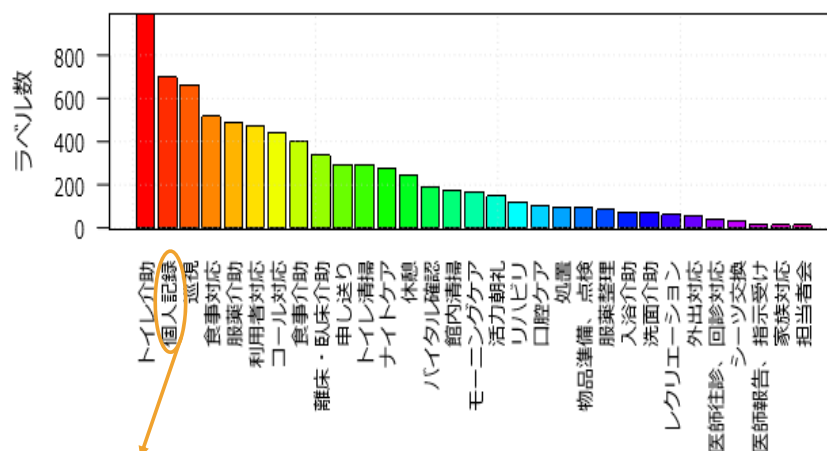


介護記録の入力支援システムの 実装とその評価

東海大学情報通信学研究科
修士1年 小沢 龍太

背景

介護施設における介護スタッフの業務



個人記録

=

介護記録

介護記録とは

- 利用者の状態やサービスの内容を記載
- 介護職員同士の情報共有
- 家族への情報提供
- 法律で記録することが義務化

問題点

- 介護記録の内容が不十分で統一性がない
- 介護記録内に誤字や脱字等が含まれている
- 1日の業務のうち介護記録にかかる時間が多大

3

目的と手段

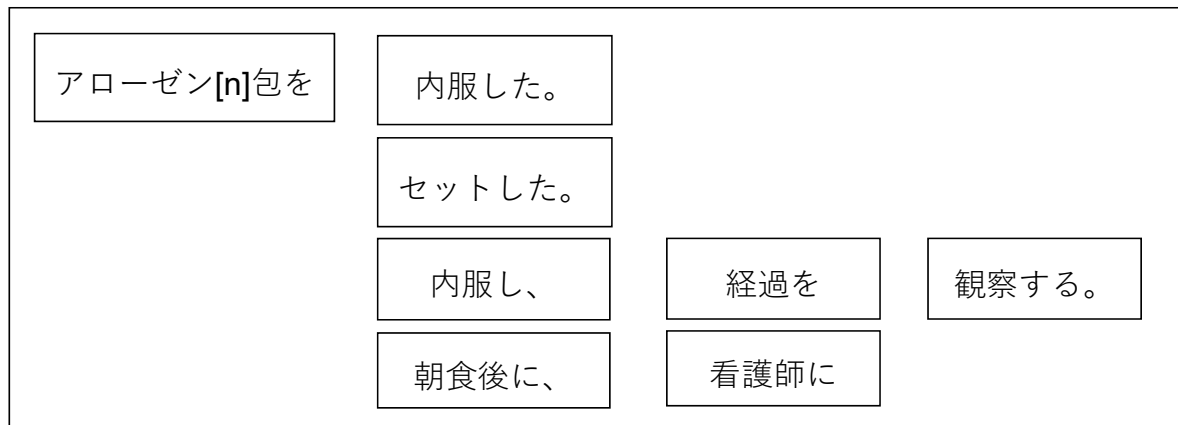
目的	介護記録内容の向上	分析の容易化	負担の軽減
手段	①文章の統一化	②誤字脱字、略語の削減	③入力時間の短縮



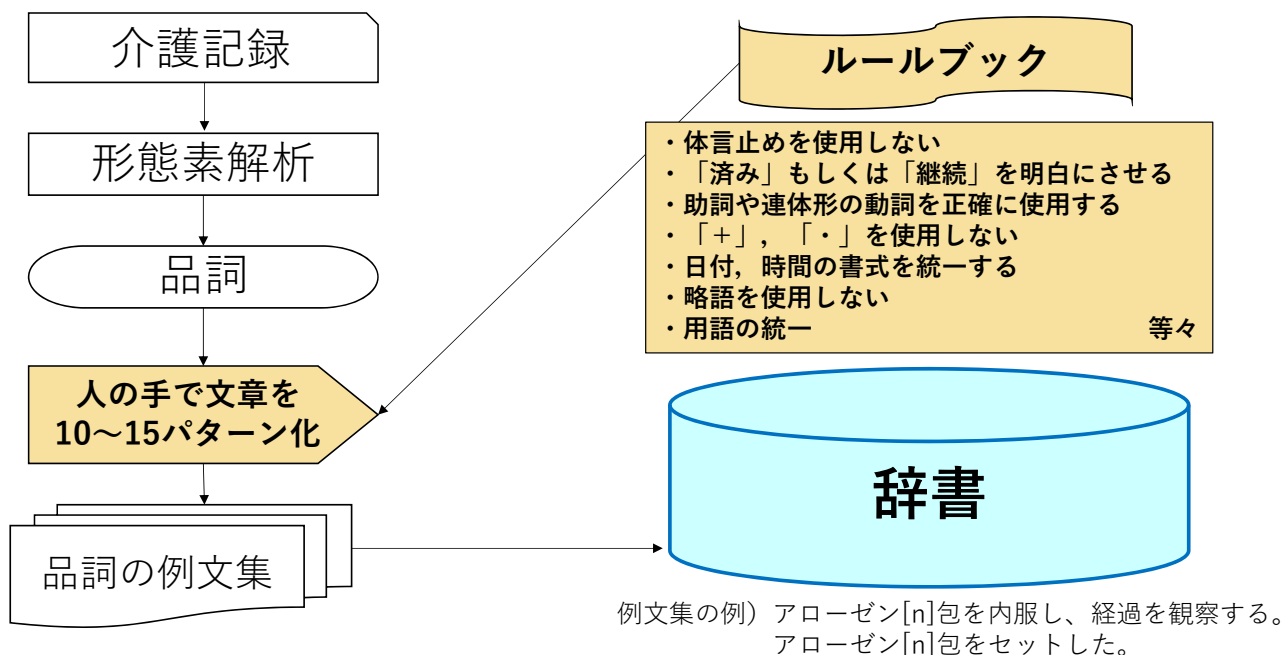
介護記録専用の入力予測変換

4

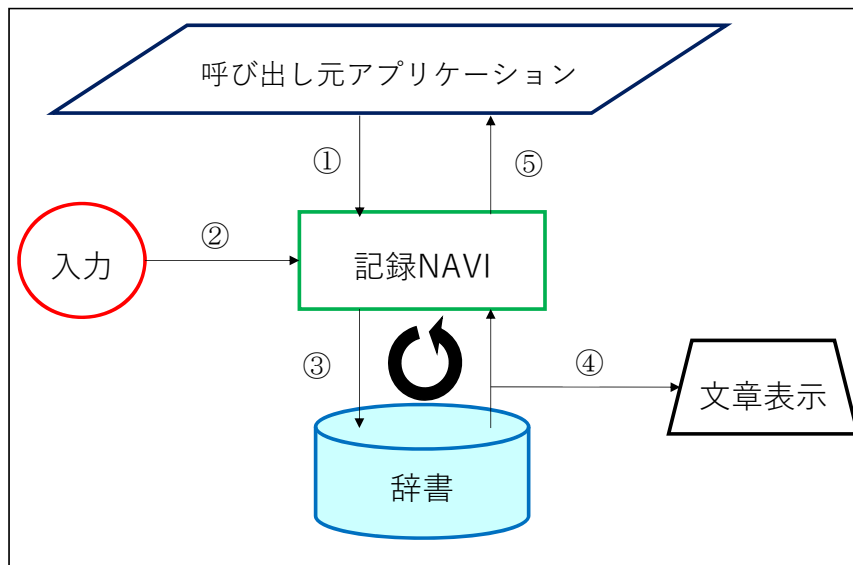
スマートフォンのような入力予測変換



アローゼン1包を内服し、経過を観察する。



システム構成図



- ① 記録NAVI呼び出す
- ② 単語を入力
- ③ 記録NAVIが入力された単語に続く文章を辞書から推測して候補を複数個出力
- ④ ③の作成中の文章を都度表示
- ⑤ 完成した文章を呼び出し元アプリケーションへ入力

※記録NAVIは三菱電機ビジネスシステムの商標または登録商標です

評価

①介護記録への網羅率

被験者：学生3人
手段：記録NAVI
方法：無作為抽出した介護記録3000行で網羅率を測る

80% (2429行) を網羅

②薬品の誤字脱字・略語率

被験者：学生6人
手段：記録NAVI
方法：指定した薬品を記録NAVIで入力して誤字数を検出

100%削減

③入力時間の短縮

被験者：学生10人
手段：記録NAVIとタイピング入力
方法：34行の文章の入力時間を比較

49%時間短縮

入力

- ・タイピングが慣れていない職員には有効なツール
- ・記録NAVIでの入力等には慣れが必要
- ・記録NAVIで入力したい文章が作成できなかった
- ・タイピングに慣れている職員にとっては必要性が低い



使用感

- ・使い慣れると便利になると思う
- ・よく使用する単語はカバーされている
- ・都度の文章が必要な場面での活用は難しい
- ・新しいことを覚えることに苦労する



9

結論と今後の課題

結論

- ・入力が苦手なスタッフの入力時間の短縮ができた
- ・介護施設から有用なツールであるとの評価をいただいた

今後の課題

- ・センサを用いた利用者の新たな症状分析の実現
- ・センサで利用者の行動を特定し介護記録の業務を削減